

## 第19回

# 未来を強くする 子育て プロジェクトのご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、  
「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、  
すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。

### 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。  
各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。



### 女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、  
育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や  
生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社  
会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。



### 目次

- p.2 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介
- p.3 ごあいさつ
- p.4 講評
- p.6 子育て支援活動の表彰
- p.15 女性研究者への支援





## ごあいさつ

高田 幸徳

住友生命保険相互会社  
取締役 代表執行役社長

本年度も、「未来を強くする子育てプロジェクト」に多くのご応募をいただき、誠にありがとうございます。

住友生命の創業100周年記念事業として2007年にスタートした本プロジェクトは、今年で19回目を迎えました。「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、未来を担う子どもたちと、その成長を支える皆さまの歩みを後押しさせていただいております。

今年度も、全国各地から多様な取組みが寄せられました。

子育て支援活動については、家庭や地域を取り巻く環境の変化を捉え、子どもや保護者一人ひとりに向き合いながら、持続的な支援のあり方を模

索する工夫と挑戦が随所に見られました。いずれの取組みも、社会の変化に応じた柔軟な発想と実行力にあふれており、大変心強く感じております。

女性研究者の皆さまの応募書類からは、子育てと研究の両立という課題に向き合いながら、未来志向の研究に真摯に取り組んでいる姿勢がうかがえました。

受賞された皆さまの活動はもとより、本プロジェクトに関心を寄せ、挑戦を重ねてこられたすべての方々の行動が、活力ある未来社会へ広がっていくことを期待しております。

住友生命は、ウェルビーイングという価値観を軸に、将来世代が安心して成長できる環境づくりに、これからも責任をもって取り組んでまいります。

## 選考結果

第19回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2025年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には225組、「女性研究者への支援」には135名のご応募をいただきました。

選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

### 子育て支援活動の表彰 応募数225組

- 内閣府特命担当大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- 文部科学大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞／2組
- スミセイ未来賞／10組

表彰数

12組

### 女性研究者への支援 応募数135名

- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

表彰数

10名

# 講 評



選考委員長

汐見 稔幸

東京大学名誉教授、  
白梅学園大学名誉学長

**子** 育て支援の選考を通じて見えてきたのは、不登校や引きこもりなど、学びの場から距離を置かざるを得ない子どもたちの背景には、家庭の努力だけではどうにもならない、複雑に絡み合った社会的要因が存在しているという現実です。こうした課題を社会全体の問題として捉え直し、子どもを取り巻く環境全体に向き合い、総合的に支援する団体が確実に増えています。一人ひとりの状態を踏まえ、地域全体で支えていこうとする姿勢は、日本の未来への確かな希望を感じる選考となりました。

女性研究者の選考においても、社会の問題に鋭く切り込もうとするテーマが多く、非常に強い興味を持ちました。AIの進展によって社会構造が変化していくなかで、過去をなぞるだけでなく、時代を貫く普遍的なテーマに挑み始めている、その感性には改めて感心させられました。日本の女性研究者は、世界に誇れる存在である——その事実を広く伝えたいと、改めて強く思いました。



選考委員

大日向 雅美

恵泉女学園大学学長

**本** プロジェクトの19年を振り返ると、女性が子育てをしながら研究の道を究める厳しさは変わらない一方で、困難それ自体に变化を感じます。初期の頃は経済的困窮や夫・家族の無理解等が大半でしたが、近年、とりわけ今年は研究者自身が「人として生きる生きづらさ」を強く感じていることが伝わってきました。その感覚が研究テーマにも反映され、問いの質が変化していることを思いました。本年度選ばせていただいた研究は、いずれも深く人間の在り方に向き合うテーマであり、こうした問いを一筋に掘り下げている点に、女性研究者ならではの鋭さ、子どもの育ちに寄り添いながら研究に取り組む真摯さを感じています。女性研究者支援というプロジェクトの理念が今日的に深化していると感じながら選考に臨ませていただきました。





選考委員

奥山 千鶴子

認定NPO法人  
びーのびーの理事長

今

回の選考では、コロナ禍以降に立ち上がった新しい団体が多く見られたことが一つの特徴でした。こども家庭庁の発足という背景に加え、地域にはなお解決されていない課題が多く、人と人とのつながりづくりが強く求められている現状がうかがえます。本プロジェクトが、こうした団体の成長を後押しする役割を期待されていることを実感しました。

また、支援対象は乳幼児から若者・青少年まで大きく広がり、とりわけ若者支援の不足を課題として捉える活動が目立ちました。不登校の児童生徒が35万人に達するなか、民間が先行して支援の必要性に気づき、行動している意義は非常に大きいと感じます。制度や公的支援が十分に整理されていない領域においても、現場での実践に目を向け、丁寧に支えていく必要性を感じました。



選考委員

米田 佐知子

子どもの未来サポートオフィス  
代表

今

回の選考では、教育機会確保法の施行から10年を迎えようとするなか、不登校支援をめぐる取組みが各地で広がりを見せている様子が見えつつありました。多様な学びの場は増えつつある一方で、社会の理解が十分に行き渡っているとは言えず、実際に通うことへの心理的なハードルの高さも感じられます。応募団体の多くは、当事者である親や地域の人々が声を上げ、悩みを共有しながら立ち上げてきた活動でした。当事者同士の支え合いから生まれた活動が広がりを持ち、支援者を獲得しながら実績を積み重ねられていることに大きな意味を感じます。あわせて、家族を支えるヤングケアラーの存在など、表に出にくい課題にも目を向け続ける必要性を改めて感じる選考となりました。



選考委員

藤本 宏樹

住友生命保険相互会社  
常務執行役員

「未

来を強くする子育てプロジェクト」も19回目を迎えました。今年度は、地域の課題に向き合い、社会の変化を敏感に捉えた新しい活動が数多く寄せられました。

特に、不登校や生きづらさを抱える子どもたちに寄り添い、安心して過ごせる居場所や学びの機会を提供する取組みは、教育のあり方が大きく変化するなかで、社会にとって極めて重要な役割を担っています。また、体験格差・教育格差の解消に取り組む活動も多く見られました。子どもたちが自分の可能性を伸ばせる環境づくりに尽力されている点に深い感銘を受けるとともに、その社会的意義の大きさを改めて感じました。

「女性研究者への支援」においては、育児を経験したからこそ得られる独自の視点を研究に活かし、新しい知見を切り拓いていく姿が印象的でした。多様な背景を持つ研究者の存在は、研究者コミュニティのみならず、これから研究に挑戦しようとする方々にとっても確かな励ましとなるはずです。

こうした活動がさらに広がり、子どもたちが安心して学び、成長できる社会の実現につながることを心より願っております。

# 受賞団体のご紹介

p.8

スマセイ未来大賞・  
内閣府特命担当大臣賞



滋賀県

特定非営利活動法人  
こどもソーシャルワークセンター

p.9

スマセイ未来大賞・  
文部科学大臣賞



東京都

特定非営利活動法人  
維新隊ユネスコクラブ

p.10

スマセイ未来賞



神奈川県

特定非営利活動法人  
AYA

p.10

スマセイ未来賞



神奈川県

一般社団法人  
金沢区助産師会 山本助産院

p.11

スマセイ未来賞



山形県

特定非営利活動法人  
クローバーの会アットやまがた

p.11

スマセイ未来賞



東京都

特定非営利活動法人  
子育てママ応援塾ほっこりーの



p.12

### スマセイ未来賞



神奈川県

特定非営利活動法人  
多様な学びプロジェクト

p.12

### スマセイ未来賞



東京都

特定非営利活動法人  
東京里山開拓団

p.13

### スマセイ未来賞



北海道

NPO法人  
陽向ぼっこ

p.13

### スマセイ未来賞



兵庫県

一般社団法人  
ひょうごラテンコミュニティ

p.14

### スマセイ未来賞



福岡県

NPO法人  
福岡ファミリーハウス

p.14

### スマセイ未来賞



千葉県

一般社団法人  
ロングスプーン協会

## 子育て支援活動の表彰

# スミセイ未来大賞・内閣府特命担当大臣賞

滋賀県

大津市

## 特定非営利活動法人 こどもソーシャルワークセンター

言葉にならない  
子どものしんどさをすくい上げ、  
地域とつなぐ、支え合いの場



### 言葉にならない「しんどさ」をすくい上げる

私たちは、ソーシャルワーカーとして、さまざまな「しんどさ」を抱える子どもたちに直接寄り添っています。多くの子どもは、自分が置かれている状況を「虐待」「貧困」「ヤングケアラー」などといった言葉で伝えることができず、漠然と「しんどいなあ」と感じています。そうした言葉にならない思いを、できるだけ早くすくい上げ、子どもたちと安心して過ごせる時間と関係を重ねていくこと。それが、私たちの活動の原点です。

### 暮らしの中で安心を取り戻す時間

これまで、子どもの生活リズムに寄り添いながら、夜の居場所「トワイライトステイ」や日中の居場所「ほっとるーむ」などの場を開設してきました。夕食を一緒に食べ、銭湯に出かけ、何気ない会話を交わす。そうした日常の積み重ねによって、子どもたちは少しずつ心を開いていきます。家庭的な雰囲気大切に、大人が寄り添う。子どもたちからは、「ここに来ると気持ち良くなる」という声も聞かれます。

### 子どもたちを支援へつなげ、地域における支えをつくる

私たちは、子どもたちを民間や行政の支援に「つなぐ」とともに、制度のはざまにあるグレーゾーンの子どもたち一人ひとりに寄り添う活動を、少しずつ「つくって」きました。活動の規模を拡大するよりも、地域の人々の力で無理なく実践できるモデルづくりを大切にしています。こうして育ててきたモデルが、日本各地で子どもたちを支える基盤となることを願っています。

代表者 幸重 忠孝

活動開始年月 2012年4月(法人化2018年3月)

スタッフ数 11名

### 受賞の言葉

滋賀県大津市での活動から10年を迎えるというタイミングで、輝かしい賞をありがとうございます。草の根で家庭や学校生活などでしんどさを抱えることもや若者を、地域の力で支えるさまざまなモデル事業をつくりあげてきました。他の地域にモデル事業としてつくりあげた活動を広げていけるように努力していきます。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞

東京都

新宿区

## 特定非営利活動法人 維新隊ユネスコクラブ

学びと食で子どもを支える  
学習支援活動を全国に広げる



### 子どもを取り巻く学びの課題

私たちの身近には、経済的な事情により学ぶ機会を得られない子どもたちがいます。また、経済的に恵まれていても、虐待や家庭不和などの影響で家庭環境が学習に適さないケースもあります。こうした状況では、食事に偏りが見られることも多く、学びを支えるためには栄養面のケアも重要な課題となっています。これらの課題に対応するため、私たちは食事も提供する無料の学習塾「ステップアップ塾」を始めました。

### 子どもが安心して学べる環境を整える

週1回の学習塾「ステップアップ塾」は、国内5カ所の教室に加え、オンラインでも参加が可能です。運営の中心を担う大学生講師は、学習指導を行うだけでなく、子どもたちの相談相手にもなり、身近な目標として学習意欲を高める存在です。また、講師を必要としない子どもたちには平日の教室を開放し、自習教室「STUDY CAMP」として集中して学べる環境を整えました。提供する食事は管理栄養士が監修し、必要に応じて栄養指導も行っています。

### トレーラーハウスで学びを全国に

これまでの活動の成果を、より多くの子どもたちに届けるため、トレーラーハウスやバン車両を改装し移動型の学習教室を開発しました。全国展開はまだ始まったばかりですが、各地の団体や企業と連携し、この移動型教室を活用した学習モデルを各地に広げていく予定です。今後も、子どもたちが安心して学べる場所を増やせるよう取り組んでいきます。

代表者 濱松 敏廣

活動開始年月 2008年1月

スタッフ数 9名

### 受賞の言葉

このたびは、私たちの活動をご評価いただき、誠にありがとうございます。学習支援に加え、子どもたちが安心して学べる環境整備や、食事・栄養と学力向上の関係性を重視した取組みを行ってまいりました。本受賞を励みに、今後も一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞

神奈川県

横浜市

## 特定非営利活動法人 AYA



すべての子どもたちに、  
安心して楽しめる「体験」を

代表者 中川 悠樹

活動開始年月 2022年1月

スタッフ数 正会員 38名

NPO法人AYAは、病気や障がいを理由に、文化や社会とのつながりをあきらめなくてよい社会の実現を目指しています。医療従事者が見守る体制のもと、医療的ケアが必要な子どもも安心して参加できる環境を整えています。映画・スポーツ・音楽・芸術などの体験型イベントを通じて、病気や障がいのある子どもたちとご家族が、感動を分かち合える場を提供しています。

### 受賞の言葉

このたびは栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。AYAは、病気や障がいのある子どもと家族に、安心して体験できる時間を届けてきました。皆さまのご支援により全国へ活動を広げられたことを励みに、すべての子どもがワクワクできる社会を目指し、挑戦を続けてまいります。

神奈川県

横浜市

## 一般社団法人 金沢区助産師会 山本助産院



助産師が子どもの成長に寄り添い、  
地域の人たちと支え合う交流拠点

代表者 山本 詩子

活動開始年月 1994年7月

スタッフ数 67名

30年以上、助産院で母と子に寄り添ってきましたが、育児中には助産院だけでは受け止めきれない不安や孤独もあります。そこで、私たちは地域で子育てを支えるため、親と子のつどいの広場「たんぼぼ」を開設しました。助産師をはじめ多様な専門家が活動を支え、交流や学びのプログラムを提供。多世代交流も実現しています。この取り組みを通じて、世代を超えて支え合う地域のコミュニティを育んでいきたいと考えています。

### 受賞の言葉

振り返れば30年。迷い悩みながらも信じた道を歩み続けた日々は、私の人生そのものでした。今年で退きますが、この受賞が、地道に歩むことの意味を後進へ示す道しるべとなれば幸いです。想いは、若い背中に託します。共に歩んでくださったすべての方へ、心からの感謝を捧げます。最後に見せていただいた景色を胸に、歩む。

山形県

山形市

## 特定非営利活動法人 クローバーの会アットやまがた



**生きづらさを抱えた子どもたちに  
居場所を提供し、  
当事者が多面的に支える活動**

代表者 樋口 愛子

活動開始年月 2015年4月

スタッフ数 8名

生きづらさを抱える子ども・若者やその家族は、先の見えない不安や孤立感を抱えながら日々を過ごしています。その背景には、一つの家庭だけでは解決できない複合的な社会課題があります。私たちは、相談事業をはじめとして、フリースクールや居場所の開設、食や生活支援などを複合的に支援する「家族まるごと支援」を実践しています。当事者としての経験をもとに、子ども・若者が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきます。

### 受賞の言葉

このたびは、輝かしい賞をいただき、心より感謝申し上げます。草の根で地道に続けてきた活動を評価いただけたことは、とても大きな励みになります。子どもを支えることは、家族の不安や孤立に寄り添うこと。「家族まるごと支援」が全国に広がることを願い、これからも歩み続けてまいります。

東京都

北区

## 特定非営利活動法人 子育てママ応援塾ほっこりーの



**子育て家庭の「あったらいいな」から  
生まれた多機能型子育て支援拠点**

代表者 内海 千津子

活動開始年月 2008年7月

スタッフ数 55名

「ほっこりーの」は、孤立しやすい子育て世代やひとり親家庭に寄り添うために生まれた子育てサロンです。利用者の「あったらいいな」の声をもとに、一時預かりや産後ケア、講座・ワークショップなど、必要とされる支援を一つずつ形にしてきました。現在、多機能型連携子育て支援施設を含め4カ所を運営。子育て中の親が安心して過ごしなが、自身の経験や力を生かし、地域や社会とつながっていける場を目指しています。

### 受賞の言葉

今回の受賞、たいへん光栄です。SNSで簡単に繋がれる時代だからこそ、優しく温かな、確かな繋がりや居場所が求められています。事業連携、多職種連携、産官学連携などが織りなす「誰一人取り残さないセーフティネットワーク」を、これからも拡充できるよう励んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞

神奈川県

川崎市

## 特定非営利活動法人 多様な学びプロジェクト



子どもたちに多様な  
学びの機会を提供する。  
居場所を見える化し、広げる活動

代表者 生駒 知里

活動開始年月 2017年10月

スタッフ数 30名

当団体は、学校外で育つ子どもたちや保護者が利用できる全国の居場所を紹介する検索サイト「街のとまり木」や、オンラインのコミュニティづくりを通じて、孤立しがちな不登校家庭や支援者を支えてきました。今後は、地域の居場所をさらに増やすため、共感する人々を担い手として育成・支援するとともに、調査と政策提言を重ねながら、子どもたちがどこで生まれ育っても安心と幸せを感じられる社会の実現を目指します。

### 受賞の言葉

全国の不登校児童生徒は35万人を超え、依然として増え続けています。今回の受賞は、私たち団体だけでなく、学校外で育つ子どもを支える保護者、支援者にとっても、大きな勇気と希望を与えてくれます。すべての子どもたちが、自分らしく育ち、安心と幸せを感じられる社会になるよう、これからも力を尽くしていきます。

東京都

世田谷区

## 特定非営利活動法人 東京里山開拓団



児童養護施設の子どもたちとともに  
荒れた山林や空き家を  
再生してふるさとづくり

代表者 堀崎 茂

活動開始年月 2009年4月

スタッフ数 ボランティア会員50名

2009年以降、児童養護施設の子どもたちとともに開拓者精神を発揮して荒れた山林や空き家を再生し、願っても叶わなかった「ふるさと」を自ら創り出してきました。活動の柱は①東京八王子郊外の荒れた山林を再生してツリーハウスもあるふるさとの山づくり、②ふもとで廃墟となっていた築300年の古民家を再生したふるさとの家・さどろりんづくり、③都心の空き家4軒をDIY改修した施設退所者の自立応援の家・まちどろりんづくりです。

### 受賞の言葉

山林の荒廃、空き家、虐待、貧困等山積みの社会課題と莫大な借金…大人社会は未来の子どもたちに何が残せたのでしょうか。私たちは本気で、「未来を強くする子育てプロジェクト」として、児童養護施設の子どもたちとともに開拓者精神を発揮し、埋もれた資源を再生してふるさとを自ら創り出す活動を続けてまいります。

## 北海道

白糠郡

### NPO法人 陽向ぼっこ



小さな町で、  
子どもと地域の人々が共に集い、  
安心して遊び学べる居場所

代表者 儀同 一義

活動開始年月 2010年4月

スタッフ数 9名

北海道にある白糠町は、人口約7,000人の小さな町で、かつて栄えた水産加工業が縮小し、人口流出、商店街の衰退、高齢化など多くの課題を抱えています。こうした状況に応えるため、私たちは活動を始めました。地域の人々から寄せられる声に応え、子どもたちの居場所づくりに始まり、子ども食堂、学習支援などに活動を広げています。地域の方々にも開かれた場となっており、多世代交流の拠点として、好循環が生まれています。

#### 受賞の言葉

このたびは、大変意義のある賞をいただき会員並びにスタッフ一同うれしい気持ちでいっぱいです。心より感謝申し上げます。小さな港町で、主に生活困窮家庭の子どもたちを対象とした、食支援や教育支援などの活動を続けて17年目に入りました。振り返ると早い歳月でした。今後も、地域貢献活動に邁進してまいります。

## 兵庫県

神戸市

### 一般社団法人 ひょうごラテンコミュニティ



『住みやすい日本をつくるために』  
全国のスペイン語圏コミュニティに  
寄り添う、学びと相談の場

代表者 大城 ロクサナ

活動開始年月 2000年6月

スタッフ数 4名

私たちは、日本で暮らすスペイン語圏コミュニティを支える活動を続けています。言語や文化の壁で困難を抱える人々へ、情報誌やラジオ放送、SNSなどで情報を届け、生活相談にも応じています。拠点では、スペイン語圏ルーツの子どもたちが母語を学びアイデンティティを育みながら親子関係を深めています。現在、30名のさまざま国籍の生徒が通っています。

#### 受賞の言葉

2000年よりラテンアメリカ出身者と日本人のボランティアで、生活改善や社会統合に邁進してきました。この受賞は、共に歩んだ皆さまの想いの結晶です。心より感謝申し上げます。これを糧に、次世代のより良い未来と、誰もが住みやすい多文化共生のまちづくりに向け、一層活動を推進してまいります。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞

福岡県

福岡市

## NPO法人 福岡ファミリーハウス



病気の子どもを支える家族に  
心休まる時間と場所を提供する

代表者	高原 登代子
活動開始年月	2000年9月 (法人化2023年12月)
スタッフ数	6名

高度医療を受けるため遠方の病院に入院する子どもに付き添う家族は、病気への不安に加え、日常生活のままならなさに日々疲弊していきます。ファミリーハウスは、そんな家族が病院の近くで自宅のようにくつろげる部屋です。スタッフの多くは子どもの病気を経験した当事者で、同じ目線だからこそ寄り添える支援を行っています。近年、地域ボランティアの支えにより、付添いのご家族への食支援(お弁当配布)も開始しました。

### 受賞の言葉

このたびは名誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。福岡ファミリーハウスの活動は、昨年多くのご支援の下に、前身の「あいの家」開設から30周年を迎えました。病気であっても日々成長する子どもとその家族が、病院の近くで安心して治療や子育てが送れるよう今後も活動を維持し、広げていく励みとしてまいります。

千葉県

市川市

## 一般社団法人 ロングスプーン協会



全国の飲食店とともに、フードリボンで  
子どもたちの食事と居場所を支える

代表者	橋本 展行
活動開始年月	2021年5月
スタッフ数	7名

私たちは「フードリボン」という取組みを通じ、全国の飲食店による子ども食堂開催を支援しています。飲食店の利用客がリボンを購入すると店頭に掲示され、子どもはそれをスタッフに渡すことで、いつでも食事を受け取れる仕組みです。飲食店スタッフとの信頼関係も育まれ、子どもたちの安心できる居場所になります。こうした場所を日本中に広げ、子どもたちが健やかに成長できる地域の支え合いの場を育てることを目指しています。

### 受賞の言葉

私たちの活動が「未来を強くする」ための「子育て支援」としてご評価いただいたことに、大きな喜びとともに、深く感謝申し上げます。日本全国での活動を支えて下さっているサポーター、ボランティア、そして参加飲食店の皆さまになり代わりまして、謹んでお受けいたします。この賞に恥じぬよう、今後も一層精進してまいります。

# 女性研究者への支援

## スミセイ女性研究者奨励賞

井川 摩耶 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 国際協力学専攻 博士後期課程



### 受賞の言葉

このたびは奨励賞に選出していただき、心より感謝申し上げます。シングルマザーとして四児を育てながらの研究生活は、日々試練と挑戦に満ちていますが、本受賞は私にとって大きな励みとなりました。子どもたちの笑顔や周囲の温かな支えへの感謝を胸に、研究成果をより良い社会へ還元できるよう、今後も一歩ずつ歩んでまいります。

### 研究テーマ

援助縮小と脆弱な支援構造が  
難民の潜在能力に及ぼす影響  
— タイ・ミャンマー国境キャンプの事例分析

【内容】近年、主要ドナーによる援助削減が進み、援助依存度が高い国々では生活基盤を支える制度や社会環境が揺らいでいる。本研究は、ASEAN最大級の難民受入国でありながら、難民支援を長年外国援助に依存してきたタイ・ミャンマー国境の難民キャンプを事例に、援助縮小を契機とする脆弱な支援構造と、人道援助と開発援助の制度的な非接続が、人々の潜在能力とその機能にどのような影響を与えるかを質的調査から分析する。人道援助を補完しうる開発援助枠組みの理論構築と実践的示唆の提示を目指す。

池北 眞帆 東京大学大学院 総合文化研究科 地域文化研究専攻 博士後期課程



### 受賞の言葉

このたびは栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。周囲の多くの方々から日々の生活を支えてもらい、これまで育児をしながら研究を続けることができました。本受賞を励みに、研究者として研鑽を重ね、多様な人々が共に生きる社会の理解に貢献することで、これまでの支えに応えていきたいと考えております。

### 研究テーマ

スペイン右派ポピュリズム政党支持をめぐる  
「部分的つながり」

【内容】2000年以降、世界各地で右派ポピュリズム政党が躍進する中で、本研究はスペインの右派政党ボックスの支持者の政党支持のあり方を多角的に検討する。支持を固定的な思想や強い帰属意識として捉えるのではなく、個人の支持の揺らぎや、状況に応じて変化する支持とのつながりの部分性に注目する点に特徴がある。支持者の日常に根ざした政治的な実践を文化人類学の視点から分析し、右派ポピュリズム政党支持の背景理解を深めることを目指す。

# 女性研究者への支援 スミセイ女性研究者奨励賞

石神 真悠子

東洋英和女学院大学 人間科学部・人間科学科 任期制嘱託講師



## 受賞の言葉

このたびは受賞者としてご選定くださり心より感謝申し上げます。子どもは可愛いものの、育児・仕事・研究との両立はあまりにも大変で何度も諦めかけましたが、“育児も研究も応援する”本プロジェクトに救われました。ここまで支えてくださった恩師・先輩方、家族に感謝し、社会に貢献できる研究ができるよう精進したいと思います。

## 研究テーマ

「学びの多様化学校」における主体性  
— アレントの『活動』『現われ』概念と  
バトラーのパフォーマティビティ理論を手がかりに

【内容】本研究は、不登校の増加を背景に設置が進む「学びの多様化学校」が、不登校児の受け皿にとどまらず、主体性や公共性を育む教育空間となり得るのかを、教育哲学的観点から検討するものである。アレントの「活動」「現われ」の概念とバトラーのパフォーマティビティ理論を手がかりに、「学びの多様化学校」が有する主体形成・公共性の意義を明らかにし、「公共的教育空間」として捉え直すことで、教育の場における主体形成に関する新たな理解を提示したい。

小山 あゆみ

東北大学大学院 国際文化研究科・多文化共生論講座 博士後期課程



## 受賞の言葉

このたびは荣誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。博士課程在籍中に二児の出産を経験し、研究・育児・仕事の両立に悩みながら歩んできました。今回の受賞で、諦めずに挑み続ける母の姿を子どもたちに伝えられると感じています。支えてくださった恩師や家族への感謝を胸に、次世代につながる研究に誠実に邁進してまいります。

## 研究テーマ

ポリビアのコロニアオキナワにおける言語継承  
— 日本語教育と教育環境の変遷 —

【内容】ポリビアのコロニアオキナワでは、入植から70年が経過した現在も日本語が日常的に使用され、沖縄文化も継承されている。一般に移民の母語は三世代で移行するとされるが、同地域は例外的である。本研究は、これまで言語学的に事実確認にとどまってきた継承要因を、教育環境に着目して解明することを目的とする。教育主導者の変遷や社会・経済的背景を含む教育史を明らかにし、同地域の独自の言語文化継承の構造を理論的に示す。

坂井 華海 熊本大学大学院 自然科学教育部 博士後期課程



受賞の言葉

このたびは栄誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。妊娠・出産を経て生活環境が変化する中での受賞は、研究を継続する上で大きな励みとなりました。今後は、研究を通じた地域社会への貢献を目指すとともに、研究とライフイベントの両立に挑むすべての方への希望となれるよう、一層努めてまいります。

研究テーマ

市井のオーラルヒストリー  
— 名もなき熊本・荒尾の革命支援者たち —

【内容】本研究は、20世紀初頭に孫文の革命を支援した熊本県出身の宮崎兄弟と、その活動を陰で支えた多くの無名の人びとの歴史を、パブリックヒストリーの視点から調査・記録するものである。熊本県荒尾市に残された地域住民所蔵の史資料や証言を通じ、これまで十分に描かれてこなかった関係者の履歴や活動を明らかにする。こうした草の根の協力の歴史を掘り起こすことで、地域史の再評価と日中関係を理解する新たな視座を提供することを目指す。

座間味 愛理 九州大学大学院 人間環境学研究院 学術協力研究員



受賞の言葉

このたびは栄誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。大学院時代の恩師や仲間との出会いが生涯の研究テーマに導いてくれました。出産や家族の転機を経て大学教員職を退きましたが、助成を機に研究を続け、育児を通して実感した命の尊さと支えてくださった方々への感謝を、社会に還元していきたいと思えます。

研究テーマ

臨床動作法の国際的発信へ向けた  
英語による臨床実践の分析

【内容】日本発祥の「臨床動作法」は、不安や緊張といった身体感覚に直接働きかける独自の心理技法であり、侵襲性の低さから乳幼児から高齢者まで幅広い対象で実践されている。一方、動作の表現には日本的な身体観や文化的価値が深く反映されており、国際的な理解や普及には課題が残る。本研究は、英語による教示と実践を試み、比較文化的観点からその有効性を検討することで、国際的な心理支援の質向上と共有化に寄与することを目的とする。

# 女性研究者への支援 スミセイ女性研究者奨励賞

チェンドム アンドレア  
CSENDOM Andrea

大阪大学 国際機構  
国際教育交流センター 学生交流推進部門 特任助教



## 受賞の言葉

このたびは奨励賞を賜り、心より御礼申し上げます。日本思想史の研究と多文化環境でのバイリンガル育児、そして難病を抱える子どもとの日々は、研究と生活を切り離せないものとして私に教えてくれました。女性研究者と母として歩む中で得た経験と視点を活かし、今後も教育と研究を通じて社会に還元してまいります。

## 研究テーマ

江戸の絵本を活かした日本文化発信教材の開発  
— 現代と世界をつなぐ対話と実践に向けて

【内容】近世日本の風刺絵本である黄表紙を手がかりに、当時の価値観や世界観を現代の私たちに伝わる形で読み直す。災害や社会的困難を笑いへと転化してきた江戸庶民の感性には、現代社会にも通じる視点がある。本研究では、学習者が知識を受動的に学ぶのではなく、自身の経験と結びつけて語り、共有する教材の開発を通じて、日本文化を体験的に理解し発信することを目指す。多文化社会における対話と相互理解を促す文化発信教育のあり方を探究する。

藤田 綾

オックスフォード大学大学院  
社会政策・介入研究科 社会介入・政策評価学 博士課程



## 受賞の言葉

栄誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。英国で博士課程に在籍し、育児との両立に試行錯誤しながら研究を続ける中で、今回の受賞は大きな励みとなりました。すべての子どもと家族の尊厳が守られ、その可能性を十分に発揮することのできる社会の実現に向け、今後も研究成果を社会に還元できるよう精進してまいります。

## 研究テーマ

ウガンダにおける、児童虐待防止のための  
育児プログラムにおける  
障害インクルージョンの阻害要因と促進要因の解明

【内容】本研究は、普遍的育児プログラムにおける障害インクルージョンを阻害・促進する要因を明らかにし、その実証的枠組みを構築することを目的とする。テーマ分析を通じて、障害児家庭の保護者が育児プログラムに参加する際の障壁および促進要因を特定し、プログラム設計や政策形成に資する知見を提示する。これにより、国際的育児支援の標準に障害への適応や主流化を組み込む基盤を整え、ウガンダから低中所得国への普及に貢献したい。

## 向 はるか

広島大学大学院  
人間社会科学研究所 人間総合科学プログラム 博士後期課程



### 受賞の言葉

選考委員の皆さま、ご指導いただいた先生方、調査協力者の皆さまに心より感謝申し上げます。NPOでの災害ボランティアや地域防災活動の経験と、研究の知見を融合させ、独自の視点で精進してまいります。また、子どもたちに研究の面白さを背中ですせるよう、私自身も楽しみながら学びを深める所存です。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

### 研究テーマ

#### 混住化と災害 — 住民自治組織における共助の社会学的研究

【内容】国内各地で災害が多発する現在、新旧住民混住化や住民層の多様化により、従来の共助の仕組みは脆弱化している。本研究は、外国人や観光客、若年層、地域内外のボランティア、防災士等に着目し、共助が実現可能な論理や担い手となる主体を明らかにすることを目的とする。多様な主体が関わる災害タイムラインにおける共助の場面を整理することで、現代社会に適応した、持続可能な共助の再構築を提案することを目指す。

## 山田 夏子

立教大学大学院 社会デザイン研究科 博士後期課程



### 受賞の言葉

このたびは栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。本賞を励みに、「子どもがいたからこそ夢を諦めずに歩んでこられた」と言えるような研究者でありたいと考えております。研究がより豊かな社会の創出に寄与するよう、支えてくれる家族やご指導くださる先生方への感謝を胸に、歩みをさらに前へと進めてまいります。

### 研究テーマ

#### セクシュアルマイノリティ女性による 家族形成と家族実践

【内容】日本ではLGBTQの可視化が進む一方、出産・育児には課題が残る。本研究は、セクシュアルマイノリティ女性の妊娠・出産・育児に関する実態を、家族形成に関わる関係者を対象に明らかにする。セクシュアルマイノリティ女性のみならず、精子ドナーと子どもの立場にも焦点を当て、課題の把握を通じて家族の社会的包摂に向けた示唆を得る。多様化する家族のあり方を再考する契機とするとともに、制度設計と社会的支援の構築に寄与する。